

氏名	徳永尚登
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第5260号
学位授与の日付	平成28年 3月25日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科生体制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)

学位論文題目 Rapid and high-dose titration of epoprostenol improves pulmonary hemodynamics and clinical outcomes in patients with idiopathic and heritable pulmonary arterial hypertension  
(エポプロステノールの急速・高用量の増量法は特発性/遺伝性肺動脈性肺高血圧症症例の肺血行動態と臨床予後を改善する)

論文審査委員 教授 佐野 俊二 教授 千堂 年昭 准教授 佐藤 健治

#### 学位論文内容の要旨

現在、エポプロステノールの有効性は報告がなされているが、その適切な増量法に関しては未だ不明である。我々は、エポプロステノール治療を受けた肺動脈性肺高血圧症(PAH)症例の予後予測因子を明確にするため、WHO機能分類 III または IV の特発性/遺伝性 PAH 患者 46 例について、後ろ向き観察研究を行った。約 2,100 日の追跡調査期間中 32 例(70%) が生存し、14 例が死亡した。生存例の多くは、投与開始後 1 年間に急速な増量を行っていた。そこで、エポプロステノール開始後 3 ヶ月目に 20ng/kg/min 以上かつ、1 年目に 45ng/kg/min 以上投与した症例を急速増量群、それ以外を緩徐増量群と定義し、2 群を比較した。急速増量群は投与開始後 6 ヶ月以降で持続して肺動脈圧が有意に低下したが、緩徐増量群では低下を認めなかった。さらに、急速増量群では生存率が緩徐増量群と比較して有意に良好であった(100% vs.51%,p=0.022)。特発性/遺伝性 PAH 症例において、エポプロステノールの急速・高用量の増量法は、肺血行動態と予後の改善につながることを示された。

#### 論文審査結果の要旨

本研究は肺動脈性肺高血圧症患者に対するエポプロステノールの有効性を 46 症例で検討した論文である。エポプロステノール急速増量群で肺血行動態と予後の改善を認め、エポプロステノールの早期の急速増量の有用性を初めて証明した価値のある論文である。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。